

オールヒット! 宮川哲夫

昭和の街角を歌で綴る展

ロイド眼鏡に 燕尾服
泣いたら燕が 笑うだろ
涙出た時や 空を見る
サンドイッチマン
サンドイッチマン…



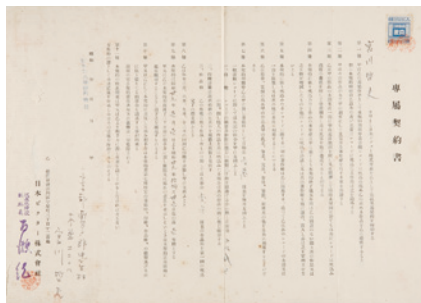
「街のサンドイッチマン」レコード

昭和 28年、繁華街でおどけて
みせるサンドイッチマンの哀
しみを歌った「街のサンドイッチマン」
で、初のヒットを得た作詞家・宮川哲夫。彼の
人生は「詩」とともにありました。10代で詩と出会い、12歳で母親が
死去。悲しみに暮れる中、宮川は次第に文学の世界に没頭していき
ました。師範学校を卒業し、地元・大島で教師生活をはじめますが、
戦前から戦後へと大きく価値観が変容するこの時代、揺れ動く宮川
の心を支えていたのは詩作への情熱でした。そして昭和25年、詩作
で生きていくことを目指し上京。彼が選んだのはレコード作詞家と
しての道でした。都市の片隅で生きる人々の悲哀や貧しさをうたっ
た彼の詞は、鶴田浩二や宮城まり子の歌声にのり大ヒット。宮川は
専属作詞家となり、夢を叶えましたが、その後の華々しい活躍の影
には、ヒットメーカーとしての重圧と苦悩がありました。

「歌は世につれ世は歌につれ」——本展は、時代を色濃く映し出す昭和
和歌謡の中で、宮川が遺した数々の作品を取り上げる初の展覧会で
す。「詩」とともに生き、最後まで愚直に作詞を続けた宮川が詞に込
めた想いを、ぜひご覧下さい。



「公園の手品師」草稿とレコード



ビクター専属契約書



「ヒット賞」トロフィー

関連イベント

記念コンサート

「歌がつなぐ心の記憶」

ゲスト：三田 明

…鶴田さやか(鶴田浩二・三女)

- 日時：6月27日(土)午後2時開演
- 会場：町田市民フォーラム3階ホール
- 定員：150名(申込順)
- 申込：町田市イベントダイヤル
(042・724・5656)で
- 5月21日(木)正午から受付

記念対談

「父・宮川哲夫を語る」

語り手：浅見洋子(宮川哲夫・三女)

聞き手：辻 由美(翻訳家)

- 日時：5月9日(土)午後2時から3時30分
- 会場：町田市民文学館2階大会議室
- 定員：60名(申込順)
- 申込：町田市イベントダイヤル
(042・724・5656)で
- 4月11日(土)9:00から受付

講演会

「よみがえる歌声！林家たけ平が 昭和歌謡で辿る戦後70年」

講師：林家たけ平(落語家・昭和歌謡愛好家)

- 日時：6月20日(土)午後2時から4時
- 会場：町田市民文学館2階大会議室
- 定員：70名(申込順)
- 申込：町田市イベントダイヤル
(042・724・5656)で
- 5月21日(木)正午から受付

レコード鑑賞会

- 日時：4月18日(土)・5月30日(土)・
6月9日(火)午後4時から(40分程度)
- 定員：20名
- 申込：不要(直接、2階展示室にお越しください)

ギャラリートーク(展示解説)

- 日時：4月28日(火)・5月12日(火)・
6月16日(火)・6月28日(日)
- 午後2時から(40分程度)
- 申込：不要(直接、2階展示室にお越しください)



宮川哲夫 (1922-1974)

1922年東京府大島波浮港村の網元「宮鉄」の長男として生まれる。12歳の時、宮鉄が破産。東京の中学を諦め進学した波浮尋常高等学校高等科在学中に詩と出会う。豊島師範学校時代には文芸誌「若草」等に詩や短歌を投稿するほか、自作の詩集等を編んだ。卒業後は教師をしながら詩作を続け、1950年上京。1953年に鶴田浩二が歌った「街のサンドイッチマン」がヒットし、翌年にはビクター専属作詞家となった。その後、「ガード下の靴みがき」「赤と黒のブルース」「東京ドドンパ娘」「美しい十代」等、次々にヒット作を発表。1966年には、橋幸夫が歌った「霧氷」で第8回日本レコード大賞を受賞した。1950年から8年間町田に暮らし、忠生村立忠生小学校の教師も務めた。

町田市民文学館ことばらんど
〒194-0013 東京都町田市原町田4-16-17 TEL042-739-3420

- JR 横浜線「町田駅」ターミナル口から徒歩 8 分
- 小田急線「町田駅」東口から徒歩 12 分

